

「中世の日本」 ～室町時代を誰が滅ぼしたのか～

本単元で育成する資質・能力

(教科) 課題発見解決力(学校) 主体性, コミュニケーション能力

- 1 日時 令和4年10月5日(水) 12:55～ 13:45
- 2 学年 第2学年1組 (男子18名 女子18名 合計36名)
- 3 場所 新館2F 2年1組教室
- 4 単元について

○ 教材観

本単元は、中学校学習指導要領 歴史的分野 B近世までの日本とアジア (2)中世の日本(ウ)「民衆の成長と新たな文化の形成」を受けて設定している。

本単元では、農業など諸産業の発達、畿内を中心とした都市や農村における自治的な仕組みの成立、武士や民衆などの多様な文化の形成、応仁の乱後の社会的な変動などを基にして、農業や商工業の発達などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、中世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現することで、民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解する構成となっている。

○ 生徒観

質問項目	肯定的な評価
○歴史を学ぶことは自分にとって大切である。	67.3%
○歴史の学習は得意である	48.2%
○室町時代について知っていること(小学校で学習する事項)・記述解答	
・室町幕府や金閣・銀閣などの建造物	48.2%
・書院造, 水墨画, 茶の湯などの現在につながる文化	24.1%
・その他, 無回答, 誤答	37.9%

アンケートの結果から、生徒の多くは歴史を学ぶことは大切であると感じている。一方で、「歴史の学習は得意である」という質問になると、半数以上が否定的な回答になることから歴史の学習に苦手意識があることがわかる。特に、「歴史の学習が得意である」という質問に対して否定的だった生徒の理由のほぼすべてが「覚えることが苦手だから」であった。生徒の中では、「歴史＝暗記しなければならない」であるため、この意識を変えなければ学習を意欲的に取り組むことは難しい。

○ 指導観

指導に当たっては、室町時代について既習事項を基に、金閣や銀閣などを上げさせたうえで、それら

が現在でも残り続けていることを意識させる。そのうえで、「室町時代は現代社会にどのような影響を与えているのだろうか」という単元を貫く問いを設定する。

展開部では、鎌倉時代同様に武士の権力は衰えることなく大きな力を持つようになっただけでなく、農民や商人も協力しあうことで、武士や領主に対抗できるほどに地位が向上し始めたことを、資料を基に考えられるようにする。

5 学校が育成を目指す資質・能力

本校が教育課程全体を通じて育成を目指す資質・能力は、「表現力、コミュニケーション能力、主体性」である。この目指す資質・能力を育成するためには、各教科・領域等の授業における「展開場面」において、生徒が主体的に活動している時間の質と量を高めることが重要である。更に、生徒が主体的に活動するためには、「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」が不可欠であると考え、研究を重ねている。

本単元においても、本校では「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」を行い、少人数班で考えを何度も練り直させ、思考したことをミニホワイトボードに表現した後全体へ発表させるスタイルをとっている。

	資質・能力	意欲・態度	知識・スキル		
		主体性 (自己を認識する力、 自分の人生を選択する力)	コミュニケーション能力 (表現する力)		
授業の展開の場面で(ミニホワイトボード等を使用して)	レベル1	○課題に対して、自分の考えを持ち、取り組もうとしている。	(書く・話す・表現 speak) ○自分の考えや意見を、自分のことばで表現することができる。	(聞く) ○相づちを打ちながら、途中で口をはさまず、きくことができる。	(やりとり) ○話を聞いて質問することができる。
	レベル2	○課題に対して、自分の考えを持ち、自ら進んで取り組もうとしている。	(書く・話す・表現 tell) ○自分の考えや意見を根拠を挙げて、相手を意識しながら、適切な方法で表現することができる。	(聴く) ○相手の話の組み立てや構造を考え、話の意図や要点を整理しながらきくことができる。	(やりとり) ○話を聞いて、内容を深めるために、質問ができる。
	レベル3	○自ら課題を見つけ、自分の考えを持ち、よりよい方法を選択し、自ら進んで取り組もうとしている。	(書く・話す・表現 talk) ○自分の考えや意見を、根拠を挙げて分かりやすくまとめ、目的や場に応じて、適切な方法で論理的に表現することができる。	(訊く) ○相手の考えについて、根拠の信頼性を判断しながらきき、話された内容と自分の意見をふまえて共通点や疑問点を明確にし、相手にたずねることができる。	(やりとり) ○話を聞いて質問をした後に、自分の意見を述べ、内容をさらに深めることができる。
	レベル4	やりたいことを自ら見つけ、分析し、(大人の力も借りながら)自分たちで実行できる。	少数意見を尊重しながら、臨機応変に対応し、話し合い活動ができる。		

6 単元目標

- 中世の日本の大きな流れを、世界の歴史を背景に、時代の特色を踏まえて理解するとともに、諸資料から歴史帰還する様々な情報を効果的に調べてまとめる技能を身に付けようとする。(知識・技能)
- 中世の日本にかかわる事象の意味や意義、伝統や文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、思考したことを説明したりする力を養う。(思考・判断・表現)
- 中世の日本にかかわる諸事項について、そこで見られる課題を主体的に探究、解決しようとする態度を養う。(主体的に取り組む態度)

7 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
南北朝の争乱と室町幕府、日明貿易、琉球の国際的な役割などを基に、武家政治の展開とともに、東アジア世界との密接な関わりが見られたことを理解している。 農業など諸産業の発達、畿内を中心とした都市や農村における自治的な仕組みの成立、武士や民衆などの多様な文化の形成、応仁の乱後の社会的な変動などを基に、民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解している。	武士の政治への進出と展開、東アジアにおける交流、農業や商工業の発達などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、中世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。	中世の日本について、見通しをもって学習に取り組もうとし、学習を振り返りながら課題を追求しようとしている。

8 指導計画 (全7時間)

教科・領域の本質的な問い

- ・自分たちは歴史から何を受け継いでいるのだろうか。

過程	時間	学習内容	重点	記録	評価規準	資質・能力 (評価方法)
課題の設定	1	これまでの歴史のまとめ	主	○	これから学習する歴史を、既習事項と関連付けて主体的に学ぼうとしている。	【主体性】記述分析
単元を貫く問い (探究課題の萌芽) 室町時代は現代社会にどのような影響を与えているのだろうか						
情報収集	2	南北朝の動乱と室町幕府	知	○	南北朝の動乱の最中に室町幕府が成立したことを理解することができる。	

	3	東アジアの交流	知		日本と東アジアの国々との交流を理解することができる。	
	4	産業の発達と民衆の生活【本時】	思	○	なぜ、中世の時代で農民が強い力を持ち始めたかについて、資料を読み取りまとめ、説明できる。	課題発見解決学習【記述分析】
	5	応仁の乱と戦国大名	知		応仁の乱によって社会がどのように変化したかを理解することができる。	
	6	室町文化とその広がり	知		室町文化の特色について理解している。	
まとめ	7	まとめ	思	○	室町時代が自分たちにどのような影響を与えたのかを説明できる。	【主体性】記述分析

単元を貫く問いの終結

室町時代は、武士の影響力が拡大し、各地で支配を強めていった。民衆の生活では、貨幣の導入によって、流通が容易になり商業が発達したことで、貴族や武士以外にも裕福な人々が登場した。また共同で農作業を行うことで、農民達が団結して行動を行うようになり、自ら村を自治するようになった。

9 本時の展開

(1) 本時の目標

- 複数の資料を読み取り、情報を選択しながらまとめる活動を通して、なぜ中世の時代で農民が強い力を持ち始めたかについて、説明することができる。

(2) 本時の評価規準

- ・ 情報を整理・分析する活動を通して、中世の農民が強い力を持ち始めた理由を考え説明することができる。【課題発見解決学習】(記述分析)

(3) 準備物

- ・ クロームブック、ワークシート

(4) 学習の流れ (4時間目/全7時間)

過程	学習活動	指導上の留意事項 (○) 予想される生徒の反応 (・) 支援を要する生徒への手立て (◆)	評価規準〔観点〕 ★資質・能力【評価方法】
1 課題の把握 [5分]			
導入	<p>・資料(一揆の現代語訳)の読み取りを行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>学習課題 なぜ、中世の時代で農民が強い力を持ち始めたのだろうか。</p> </div>	<p>○「大乘院日記目録」を提示し、農民が蜂起した文章を読み取らせることで、農民の力が室町時代ころから強まっていったことを理解させるとともに、本時の学習の見通しを持たせる。</p>	
2 課題の探究 [10分]			
展開 前半	<p>・資料(鎌倉時代と室町時代の田植えの様子)の読み取りを行う</p>	<p>○「大山寺縁起絵巻」と「月次風俗図屏風」を提示し、気づいたこと・読み取ったことをワークシートへ記入する。</p> <p>◆資料の読み取りを自由に行わせることで、多くの視点からの意見を収集できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・踊っている人がいる ・女性が田植えをしている ・稲をわたしている人がいる ・牛を使って農地を耕している ・たくさんの人数で田植えを行っている 	
3 課題の解決 [20分]			
展開 後半	<p>・読み取った内容と新たな資料(「御成敗式目」の現代語訳・水車の絵)を基に、農民の力が強まったものを選び、その理由を考える。 (個人思考→グループ)</p>	<p>○グループになって、農民の力が向上した理由を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協力して農作業を行ったり、牛を使って耕したりすることで、収穫量を上げた。 ・稲作が終わった田に麦を植える二毛作を行うことで、収穫量を上げた。 ・水車を利用することで、多くの田や畑に水を供給することが可能になった。 ・協力して農作業を行ったり、新たな技術を用いたりすることで、年貢以上の収穫量を得ることができるようになった。 	<p>課題発見解決学習 【記述分析】</p>

	<p>・米と貨幣の関係について考える。(グループ)</p> <p>・村の自治について理解を深める。</p>	<p>○いくら収穫量が上がっても、米を持っているだけではあまり意味がないことを意識させ、農民の力を強めた要因の一つを、教科書の資料の中から考えさせる。</p> <p>・宋から輸入された宋銭と米を交換することで、お金を貯金できるようになり農民の力が強まっていった。</p> <p>○貨幣を使ったやり取りを取り上げることで、現代社会との共通点を見いだせるようにする。</p> <p>○農民の力が強まった結果、自分たちで協力して運営する惣が現れ、おきてを作ったり、年貢の軽減を求め団結して一揆をおこしたりしたことを理解させる。</p>	
4 次の探究に向けて。 [10分]			
ま と め	<p>・振り返りを行う</p>		
<p>生徒の振り返りの例</p> <p>A評価</p> <p>農作業を協力して行ったり、新たな技術を採用したりすることで、米などの収穫量が増えていった。また、この時代に流通した宋銭と米を交換することで、農民の中で富を蓄えることができるようになった。その結果、農民たちの地位が向上し、団結して権力者に交渉を行うようになった。</p> <p>B評価</p> <p>農作業の発展や、お金を使ったやり取りを行ったり、自分たちで自治を行う惣を作ったりすることで、農民の力が強まった。</p>			

(5) 板書計画

単元名	中世の日本													
学習課題	資料を読みとる活動を通して、なぜ中世の時代で農民が強い力を持ち始めたかについて、説明することができる。	なぜ、中世になって農民の力は強まったのだろうか												
	資料からわかること													
	<ul style="list-style-type: none"> ・踊っている人がいる ・女性が田植えをしている ・稲をわたしている人がいる ・牛を使って農地を耕している ・たくさん的人数で田植えを行っている 	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto; text-align: center;"> <tr> <td>WB</td><td>WB</td><td>WB</td><td>WB</td> </tr> <tr> <td>WB</td><td>WB</td><td>WB</td><td>WB</td> </tr> <tr> <td>WB</td><td colspan="3">惣・・・自分たちで自治を行う組織 →村の中でおきてをつくる</td> </tr> </table>	WB	WB	WB	WB	WB	WB	WB	WB	WB	惣・・・自分たちで自治を行う組織 →村の中でおきてをつくる		
WB	WB	WB	WB											
WB	WB	WB	WB											
WB	惣・・・自分たちで自治を行う組織 →村の中でおきてをつくる													